

第 6 9 5 回番組審議会報告
2 0 2 5 年 2 月 4 日開催

■出席委員

佐藤卓己委員長、栗栖義臣副委員長、川瀬慈委員（書面）、木戸哲委員、
小島幸保委員、津村記久子委員、増山実委員、安田真奈委員

■毎日放送出席者

虫明社長、宮田副社長、高山常務、酒井常務、磯澤取締役、北野取締役、
中野取締役、羽根報道情報局長、大迫プロデューサー、海老 総合演出、
奥田コンプライアンス局長、中西番組審議会事務局長

◆審議事項

テレビ番組

「阪神・淡路大震災 30 年特番 刻み続ける 1 9 9 5 年 1 月 1 7 日
～あの日、現場で起きていたこと」
(2025 年 1 月 15 日（水）20：00～21：58 放送)

【番組コンセプト】

来年 1 月、発災から 30 年を迎える阪神・淡路大震災。区切りではありますが、決して終わりではありません。いま改めて“あの時”を冷静に振り返り、心に刻み続け、向き合う“時間”を共有したい。それは、私たちの責任だと考えてゴールデンタイムに特番を制作しました。

【各委員の主な意見は次の通り】

- * 番組のコンセプトとこの時間帯にやったことが素晴らしい。会社としての意気込みと姿勢がよく表れていると思った。
- * 単なる震災の記録や振り返りにとどまらず、いたずらに感傷を煽ることもなく、視聴者に「忘れてはいけない、我々の日々の営みの延長にあるもの」として震災についての備え、考察を促す内容だった。
- * トリアージの決断を迫られた病院の現場での医師たちの葛藤や、避難所で起きた性被害、震災後に忘れられがちな障害者たちの苦しみなど、普段頻繁に取り上げられないテーマにフォーカスしていた点がとても印象的だった。
- * トリアージに立ち会った医師の「10 年たったら震災を経験している医師とそうでない医師の間に認識の差が生まれる。だから伝え続けていかなければ

ならない」という言葉は説得力があった。

- * トリアージの場面は震災直後は生々し過ぎてとても流せなかっただろう。
30年の節目に学生たちがこの場面を見て学んでいることも含めて流されたこととゴールデンの時間帯に放送したことはすごく意義があったと思う。
- * 安田さんの再現VTRにあれだけ尺を使う必要があったのか。むしろ彼の証言と現場の映像と写真を中心に構成したほうが伝わるものが大きかったのではないか。
- * 消防署にあった1300枚以上の写真が秘蔵として出てきたが、放送では数枚映されただけだった。ごく一部の写真を使って土砂崩れの現場を取り上げていたが、他の写真は一体何だったのかと思った。
- * スタジオの「阪神・淡路大震災後に変わったこと」と題したパネルに「ボランティアの一般化」という項目があった。被災者の命に直結するととても大切なことだと思うが放送では触れられなかった。
- * 避難所の性被害の問題について、これまでマスコミがあまり報じてこなかったことに触れ、震災報道のあり方について言及したことが印象に残った。震災などの災害報道では美談が優先されがちだが、あえて性被害の問題を取り上げた意義はとても大きいと思う。
- * 避難所の性被害について、さらに具体的な対策や予防策について提案すれば、より充実した内容になったのではないか。
- * 性被害問題のVTRを受けてスタジオの出演者が「知らなかった」と言っていたが、問題提起についてきちんとコメントできる人を出すべきではないか。
- * このような番組にタレントは必要ないのではないか。こなれた芸能人がいると、内容が薄まって半分フィクションのように見えてくる。アナウンサーだけでいいのではないか。どうしても出したいなら、兵庫県の被災地域出身の人を出すのがいいのではないか。
- * 全編、ワイプはいらない。すごく大事なものをしているのに気が散ってしまう。
- * 震災障害者の中にはPTSD、心的外傷を患った方も含まれると思うがそのような人たちに対する言及が番組の中で一切なかった。
- * 演出面がバラエティに寄っている。最初のエピソードの「秘蔵写真」という言葉はキャッチーという理由だけで使っているように見える。
- * CMの入れ方がバラエティ的な感覚で、意図的に話題を途中でまたぐ形で入れている。問いと答えを分断するようなバラエティ的な手法を用いなくても、視聴者を引きつける方法はあるはず。バラエティ的な手法を無意識にやっているのではないか。

*当時の映像があれだけ残っているのを見て、あらためて記録をしていくことの大切さがわかった。30年は数字の上では区切りだが、これからも番組作りにチャレンジして、風化させることなく語り継いでいただきたい。

【番組制作者側の説明、質問への回答】

- *ゴールデン帯の放送なので、見やすさを優先してしまったために、特にスタジオの部分がしっかり作り上げられなかったという反省がある。
- *ワイプについてはより多くの人がワイプきっかけで見てくれたらいいなという思いもあって、入れる選択をした。
- *スタジオ部分やワイプの指摘を受けて、これまで自分たちがやってきたやり方が無意識にしみついているような感じがした。そもそも演者をどうするのかということも含めて、考えることがまだまだあると思った。

以 上